

さい
い!!

ワークショップ!!



演劇ワークショップ!!



「刃ペン症」の 新しい出会い

老いと演劇のワークショップ

日時 2025年3月15日(土)

13時30分～15時30分(開場13時)

会場 東京都人権プラザ セミナールーム

東京都港区芝2-5-6 芝256スクエアビルF

講師 菅原直樹(すがわら・なおき)

「老いと演劇」OiBokkeShi(オイ・ボッケ・シ)主宰

定員 30名(応募多数の場合は抽選)

演技・介護経験不問どなたでもご参加いただけます

事前申込制 参加無料 託児あり(要事前予約)

情報保障についてはお問い合わせください

主催 東京都人権プラザ

指定管理者 公益財団法人東京都人権啓発センター





「講座内容」

超高齢社会や認知症に関する基礎的レクチャーのほか、参加者同士で認知症の人と介護者を交互に演じることで、認知症の人の言動を否定せずに受け入れるコミュニケーションや、言動を否定された際の認知症の人の気持ちを疑似体験していきます。演劇・介護経験に関係なく、どなたでもご参加ください。

「講師プロフィール」

菅原直樹(すがわら・なおき)

「老いと演劇」OiBokkeShi(オイ・ボッケ・シ)主宰。劇作家、演出家、俳優、介護福祉士。2010年より特別養護老人ホームの介護職員として勤務。2014年「老いと演劇」OiBokkeShiを岡山県和気町にて設立し、認知症ケアに演劇的手法を活用した「老いと演劇のワークショップ」を全国各地で展開。2016年より活動拠点を岡山県奈義町に移す。



Photo: 草加和輝



Photo: 南方幹

OiBokkeShi(オイ・ボッケ・シ)

「老い」「ぼけ」「死」で、オイ・ボッケ・シ。老いや介護を題材に芝居を作っている劇団。「老人介護の現場に演劇の知恵を、演劇の現場に老人介護の深みを」という理念のもと、高齢者や介護者と共に作る演劇公演や、認知症ケアに演劇的手法を取り入れたワークショップを実施。超高齢社会の課題を「演劇」というユニークな切り口でアプローチするその活動は、演劇、介護のジャンルを越え、近年多方面から注目を集める。

「申込方法」

ウェブフォームまたはお電話でお申込みください。

「締切」

2025年3月5日(水) 正午

「申込先」

ウェブフォーム

①<https://form.run/@lecture-2024-04>

②電話: 03-6722-0123



「お問い合わせ」

東京都人権プラザ

〒105-0014 東京都港区芝 2-5-6

芝256スクエアビル1・2F

TEL: 03-6722-0123

e-mail: fukyu3103@tokyo-jinken.or.jp

URL: <https://www.tokyo-hrp.jp/>

「老いと演劇のワークショップ」 認知症の 新たな出会い

認知症は高齢化が進む中で避けては通れない重要なテーマです。発症すると周囲とのコミュニケーションに大きな影響が出ることから、介護する側・される側ともに疲弊してしまいます。また当事者や家族が地域で孤立してしまうケースもあります。この講座では、演劇というユニークなアプローチ方法を使って、認知症当事者の感覚を知り、認知症についての気づきやヒントを探ります。

フォローアップ企画

講座終了後に映画上映を行います。

*フォローアップ企画のみの参加はできません。

上映作品

「徘徊 ママリン 87歳の夏」

(2015年・監督: 田中幸夫・77分)

時間: 2025年3月15日(土)

16時00分～17時20分

会場:

東京都人権プラザ セミナールーム



「アクセス情報」

- ・都営三田線 芝公園駅 A1 出口から徒歩3分(約250m)
(エレベーターはA3出口)
- ・都営浅草線・都営大江戸線 大門駅 A3 出口から徒歩7分(約700m)
(エレベーターはA1出口)
- ・JR線・東京モノレール 浜松町駅 金杉橋口から徒歩8分(約800m)
(エレベーターの利用は改札で駅係員にお尋ねください)

*身体障害者の方や、公共交通機関の利用が難しい方の専用駐車スペースをご用意していますので、事前にご連絡ください。